

今月のトピックス 「プラスタムを利用した水稻の葉いもち予防について」

いもち病の発生予察型の防除体系は、種子更新および種子消毒 + 葉いもち予防（初発前・粒剤）+ 穂いもち予防（出穂 1~2 週間前・粒剤）です。葉いもちの初発は 6 月中旬頃ですが、いもち病発生予測支援システム（プラスタム）を利用した、葉いもちの効果的な予防防除を紹介します。

プラスタムによる葉いもち発生時期の予測

プラスタムは、気象台提供のアメダス気象データを基に、葉いもちの発生時期を予測するシステムです（最新情報は病害虫防除所ホームページで公開しています <http://www.mate.pref.mie.jp/Bojyosyo/tyosasuitou/index.htm>）。

右表はいもち病が多発生であった、1993 年のパターンです。表中では 6 月 19 日に県内の広い範囲で が並んでいます。このことは、7~10 日後に広範囲で葉いもちの流行する前段階、つまり地域のほとんどの水田で葉いもちの病斑が分布している状態（広域的初発生時期）となることを予測しています。1993 年はこのような感染好適条件が、出穂期まで 7~10 日ごとに繰り返し現れたため、多発生となりました。

葉いもちは発生前の予防的な防除が重要ですが、このようにプラスタムで発生時期を予測することで、適期に効果的な薬剤防除ができるようになります。

葉いもち初発前の本田粒剤による防除 感染好適条件が初めて現れる時期の散布

抵抗性誘導剤（商品例；オリゼメート、ブイゲット）は、初発の 7~10 日前の散布が効果的です。感染好適条件は平年 5 月 28 日頃から現れ始めます。

感染好適条件が現れてから 7~10 日後の散布

ストロビルリン系殺菌剤（商品例；オリブライト）は、広域的初発生時期に散布すると特に効果が高いです。

なお常発地では育苗箱施用での防除が行われていますが、徐々に残効が低下しますので、6 月中旬以降はプラスタムの情報を参考に発生状況を確認してください。その他、天気予報や発生予察情報も参考に防除対策を進めてください。

いもち病発生予測支援システム・プラスタムの一例

1993	桑名	四日市	亀山	津	上野	粥見	小俣	南伊勢	紀伊長島	尾鷲
6/14	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/19	●	-	●	-	●	●	-	-	●	●
6/20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/23	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/24	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-
6/25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/29	●	-	●	●	●	●	●	●	●	-
6/30	-	-	-	-	-	●	●	●	●	●
7/01	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/02	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/03	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/04	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/05	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/06	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/07	●	-	●	-	-	-	●	●	●	●
7/08	●	●	●	●	-	-	-	-	-	●
7/09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

凡例 ; いもち病菌の感染に好適な気象条件(感染好適条件)であったことを示す。この日から 7~10 日後に葉いもちの病斑が現れることが予測される。